

アナログプレイヤーの比較試聴(10)

—モーツアルトを聴く(10)—

1. 始めに

前報(9)に引き続き、アナログプレイヤー3機種と比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は前報(1)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も弦楽五重奏です。

ドイツグラモフォン MG2223

モーツアルト 弦楽五重奏曲ハ長調

弦楽五重奏曲ハ短調

アマデウス弦楽四重奏団

セシル・アロノヴィッツ (第二ヴィオラ)

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

1967年ベルリンドイツグラモフォン Ufa スタジオでの録音です。

ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と Grrad401 では、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ThorenTD124 の再生では、盤質はよくないものの、ウォームトーンでおだやかなモーツアルトですが、ディテールの表現は LINN LP-12 に及びません。

LINN LP-12 の再生では、盤質はよくないものの、憂いを含んだ繊細な表現は出ています。

Grrad401 の再生では、LINN LP-12 に似ていますが、音に厚みがあるものの、ディテールの表現は譲ります。

4. まとめ

3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、盤質はよくないものの、これまでにない優雅な演奏が聴き取れます。

以上